

組織的な
授業力向上のための
セルフアセスメントシート
活用ガイド

2026
MARCH

① こんな疑問や悩み、ありませんか？

ここ数年で年間の動きは定例化してきたけど、本当にみんなが同じ想いで授業力向上に取り組めているのか確認したいな…



このように教員どうしの想いをつなげたい場合⇒ P. 6 へ



これまでは授業の在り方についての検討は教科内にとどまっていたけど、各教科での工夫や取組みを学校として広めていくには、まず何をしていけばいいのかな。授業見学週間はあるけど、それだけで十分なのかな…動き出しに向けて何かヒントはないだろうか？

このように各教科等の良い取組みを学校全体に生かしたい場合⇒ P. 7 へ

初任者や10年経験者を中心に研究授業などを行ってきたけど、教員全体で授業力向上について語り合ったり協働したりするためには何から始めたらいいかな…



このように教員全体で考えるきっかけを作りたい場合⇒ P. 8 へ



授業力向上のためのチームはあるけど、毎年メンバーがかわっていく中で、どうすればこれまでの成果や課題をきちんと引き継いだり、強みを生かしたりしていけるのかな…

このように学校として求める姿や強みを明確にしたい場合⇒ P. 9 へ

各校のそんな疑問や悩みを解決するための1つのツールが「組織的な授業力向上のためのセルフアセスメントシート（以下、セルフアセスメントシート）」です！
その効果的な活用方法について紹介します！



Table of Contents

① はじめに	P. 3
② セルフアセスメントシートの見かた	P. 4
③ セルフアセスメントシートの種類	P. 5
④ 活用例1～4	P. 6～9

1 はじめに

高等学校学習指導要領では、学校教育において子どもたちに生きる力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開していくことが求められています。

各高等学校において、学校の特色や地域性をふまえた「めざす生徒像」の実現に向け、日々の教育活動が行われていますが、とりわけ、授業については、教員それぞれが各教科等の指導の専門性を高めることはもとより、学校全体が一丸となって組織的に授業力を向上させていくことが大切です。

そのためには、めざす生徒像の実現に向けて育むべき資質・能力を明確にし、目標・成果指標を設定したうえで、組織的に取組みを進めるだけでなく、それらを検証し、改善していくという継続的なサイクルを回すことが必要です。

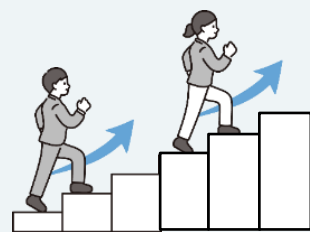
そこで教育センターでは、各校の自己点検のためのツールとして、「**組織的な授業力向上のためのセルフアセスメントシート**（以下、**セルフアセスメントシート**）」及びその「活用ガイド」を作成しました。

各校の校長や授業力向上を推進する組織等のみなさんが、この**セルフアセスメントシート**を活用して、自校の授業等に関する取組みの現状の把握や分析を行い、現状等の認識についての議論のきっかけとすることを想定しています。

自校の現状は、項目ごとに示した判断基準から「A」～「C」の3段階で確認できるようになっており、また、その段階に応じた「取組みをより充実させるためのヒント」として、実際の府立高等学校における取組み事例を見られるようになっています。

さらに、本ガイドには、実際に**セルフアセスメントシート**を活用した府立高等学校における実践事例を掲載しています。

これらが、各校の強みや課題を改めて考えるきっかけとなり、学校としてめざす生徒像の実現につながることを願っています。



なお、組織的な授業力向上のための具体的な好事例等に関しては、「高等学校における校内授業実践研究進め方ガイドブック」に掲載しています。各校の授業づくりにおいては、生徒が「**何ができるようになるか**」を常に意識する必要があります。こちらの資料を参考にして、学校全体で生徒が主体的に学ぶ授業をさらに推進していきましょう。

※教育センターWebサイト内の下記URLまたは本ガイド「Supporting material」（1）からアクセスしてください。

【https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/r5_kounaiiyugyou_guidebook.pdf】

② セルフアセスメントシートの見かた

項目番号	①		
項目及び その趣旨	めざす生徒像の実現に向けて育むべき資質・能力の明確化 学校としてめざす生徒像の実現に向けてどのような資質・能力を育むべきかが明確になっており、それについて教職員が理解している。		
段階	【項目】 ①～③：主に前年度や年度当初に取り組むために必要と考えられることについて確認する項目 ④～⑥：主に年度の実施途中に実際の実践について確認する項目 ⑦～⑧：主に次年度以降に向けて、継続性・持続可能性について確認する項目 必要に応じて項目を選んで、点検してください。		
A 「長期的視点で改善が図られたり教職員への十分な広がりが見られたりする等、理想的な状況」	<input type="checkbox"/> 学校として生徒に育むべき資質・能力が明確になっており、それについて学校全体で十分な共通理解を持つことができている。	<input type="checkbox"/> 組織が全教職員に対して情報を定期的に発信したり教職員から幅広い意見を聞き取り、学校全体で取り組む体制となっている。	<input type="checkbox"/> 実態をふまえて本年度重点的に取り組む授業力向上の目標を設定し、それを多くの教職員が理解している。
B 「継続的に改善が図られたり教職員への一定の広がりが見られたりする等、概ね組織的に取り組んでいる状況」	<input type="checkbox"/> 学校として生徒に育むべき資質・能力が明確になっており、それについて多くの教職員が理解している。	<input type="checkbox"/> 組織はあるが、取り組みを企画し運営することが十分にできていない。	<input type="checkbox"/> 本年度の目標の達成状況を把握できる、生徒の学習状況等に関する成果指標を設定している。
C 「取り組みの浸透が十分とは言えない状況」	<input type="checkbox"/> 学校として生徒に育むべき資質・能力が明確になっているものの、多くの教職員がそれを理解しているわけではない。 <input type="checkbox"/> 学校として生徒に育むべき資質・能力が明確になっていない。	<input type="checkbox"/> 授業づくりについて検討するよう	<input type="checkbox"/> 本年度重点的に取り組む授業力向上の目標を設定しているものの、その達成状況を把握できる、生徒の学習状況等に関する成果指標を
自校の現在の段階 「A」、「B」、「C」のいずれかを入力してください。	A	B	C
取り組みをより充実させるためのヒント	【自校の現在の段階】 各項目に対する自校の現在の段階を入力してください。		
	【各項目の段階の基準】 各項目についてA・B・Cの3段階での判断基準を示しています。各段階でチェックボックス形式にしています。「半分以上チェックが入っている」場合に、その段階と判断するなどして、自校の状況に一番近い段階を確認してください。		
	【取組みをより充実させるためのヒント】 「自校の現在の段階」を入力すると、その段階に応じたヒントが自動的に表示されます。		

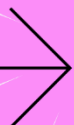
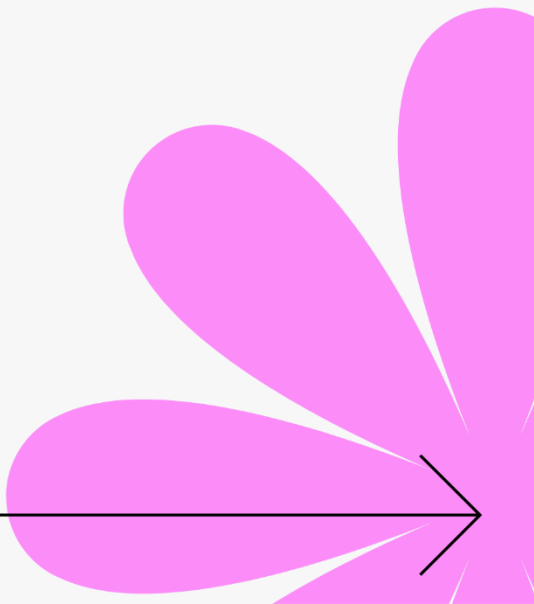


③ セルフアセスメントシートの種類

セルフアセスメントシートのエクセルファイルには、右図のように、3つのシートがあり、それぞれ次の用途等で活用することができます。

交の現在の段階 「B」、「C」のいずれかを 力してください。		A
全体編 ①～⑧ すべての項目	準備編 ①～③の 項目のみ	実践編 ④～⑧の 項目のみ

- ◎ 【全体編】シート（項目①～⑧）
 - … 組織的な授業力向上に必要な項目全般について確認し、検討したい場合に活用してください。
- ◎ 【準備編】シート（項目①～③）
 - … 準備段階として必要と考えられる項目について入れています。
チームを立ち上げる場合や、基本的な取組みについて検討したい場合に活用してください。
- ◎ 【実践編】シート（項目④～⑧）
 - … 実践段階として必要と考えられる項目について入れています。
現在の取組み等について振り返ったり検討したりしたい場合に活用してください。



4 活用例 1

ここ数年で年間の動きは定例化してきたけど、本当にみんなが同じ想いで授業力向上に取り組んでいるのか確認したいな…



1. 授業力向上プロジェクトチーム（PT）のメンバーそれぞれがセルフアセスメントシートを用いて、まずは現状の確認を行い、さらに伸ばしたい点や課題を洗い出す。
2. PT内で、例えばそれぞれが「C」を付けた項目に焦点をあて、その理由を話し合う中で学校の現状や課題について共通認識をもつ。
3. PT全体で「C」と考えた項目のうち、本年度中に改善可能なものにねらいを絞って、「組織的な授業力向上をより充実させるためのヒント」を参考にしながら、てだてを打ってみる。
4. 年度末の校内研修で全教員でセルフアセスメントシートを用いながら、話し合う場を設け、全員が同じ視点で改めて自校の状況を振り返り、次年度の方策について考える。



学校全体で**今年度の目標を確認すること**が重要だな！最終的に全教員で現状の把握と、成果を共有して、次年度につなげることができて良かった！

府立北千里高校の実践

北千里高校では、週に1時間「将来構想検討委員会」の会議を時間割に入れ、そこで授業力向上に関わる取組み等について議論している。

委員会より、毎年4月に新転任者向けに研修会を行い、そこで北千里高校として「めざす生徒の姿」や「めざす授業」について説明し、共通認識をもつ流れをこれまで作ってきた。

その中で、改めて学校全体で授業力向上に向けて取り組んでいるかを、セルフアセスメントシートを用いて将来構想検討委員会で確認することにした。

まずは、各自がすべての項目について「A」～「C」を付けた後、特に「C」を付けた項目について、その理由を話し合い、メンバー間の認識の違いなどについて共有した。

その後、項目⑦⑧について主に議論していたが、次第に、項目③④について「本年度の目標」が明確に定まっていないことが全体に影響しているのではないかと話が展開していった。

そこで、授業見学等の取組みについて、まずは本年度の目標を全教員に明確にした上で行うことにし、その方法を検討した。また、全教員で学校の現状等について考えることが重要と考え、年度末の校内研修でセルフアセスメントシートを用いた協議を行った。



4

活用例2



これまでは授業の在り方についての検討は教科内にとどまっていたけど、各教科での工夫や取組みを学校として広めていくには、まず何をしていけばいいのかな。授業見学週間はあるけど、それだけで十分なのかな…動き出しに向けて何かヒントはないだろうか？

1. 10年経験者研修の一環として、授業見学週間を組織的な授業力向上に生かす。教員がセルフアセスメントシートで授業を評価し、その結果をもとに学校全体の強みと課題を明確にする。

2. 授業力向上に向けて学校の強みを生かすため、授業見学週間のテーマ（目的）を明確に設定する。あわせて、授業見学の着眼点を分かりやすく示し、教員の参加意識を高める。

3. 授業見学週間の終了後、教員が参考になった点や新たに気付いたことをアンケートで収集し、その結果を職員会議等で共有する。これにより、学校として授業力向上への意識を高め、次年度の改善につなげる。

参画しやすい環境をつくるためには、教員が日頃どのような困りごとや関心を抱いているのかを把握し、それを取組みに反映させることが重要である。そのためにも、まず「**何のために実施するのか**」を明確にして伝えることができたのは大きな成果であった。



府立鶴見商業高校の実践

鶴見商業高校では、これまで授業力向上に向けた組織的な取組みは進められていなかった。そこで、10年経験者研修受講者を中心に、商業科と共通教科との交流を促進することを目的として、授業見学の機会をより充実させるためにセルフアセスメントシートを活用した。

主催者は、セルフアセスメントシートによる分析を通して、「課題研究や総合的な探究の時間が本校の柱であり、これらを中心に各教科間の交流を広げることが重要である。」と考えた。そこで、新たな組織を作らなくても最大限の効果を生み出せるよう方策を検討した。そして、本校の強みである課題研究等を生かし、項目⑤⑥の意識を高めるため、既存の授業見学をより目的意識をもって行えるよう改善することを第一の取組みとした。

6月の授業見学週間では、見学に行った教員に対し、「何を見に行きたいと思っていたか」「何が参考になったか」「他の教員にも勧めたいポイント」などを主催者がアンケートで収集し、その結果を11月の授業見学週間に生かす計画を立てた。

11月の授業見学週間では、各講座の特徴（ICTの活用状況や授業の見どころ等）をまとめた資料を全教員に共有したことで、自身が取り入れたい内容や他の教員の実践を意識しながら授業を見学する教員が増えた。この経験をふまえ、今後は情報共有の場として「Teams」等を活用し、他教科間で授業の進捗や単元内容を共有することで、教科横断的な授業づくりが進む環境づくりをさらに進めていく予定である。

11月の公開授業週間に向けてのアンケートについて

以下の質問の当てはまる項目に○を記入し、各先方の得意のついでに共有できるように11月の公開授業週間に向けて授業見学の参考にさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

- ① 生徒が授業時に使用しているものを教えてください。（複数選択可）
ノート タブレット 教材資料 使用していない
- ② 電子黒板にプロジェクターを使用している授業を行っていますか。
ほぼ使用している、大体使用している あまり使用していない、全く使用していない
- ③ グループワークを取り入れていますか。
毎時行っている、大体行っている あまり行っていない、全く行っていない
- ④ 生徒はICTを授業中に使っていますか。
毎時使っている、大体使っている あまり使っていない、全く使っていない
- ⑤ ICTを積極的に使用させている先生に質問です。どのように活用されていますか。（複数選択可）
web 検索 意見の集約 資料の作成 (google スライドなど) 振り返りアンケート
その他 ()
- ⑥ 生徒は授業後と教習する機会が多いですか。
毎回ある、ある程度ある あまりない、全くない
- ⑦ パフォーマンス課題はどれくらいありますか
毎回ある、ある程度ある あまりない、全くない
- ⑧ 先生の授業の見どころを教えてください（アピールポイント）（複数選択可）
導入の仕方 授業の構成 グループワーク 板書 プロジェクターの活用
1人1台端末の活用 生徒への発問の仕方 生徒へのつまりき対応 対話・交流
授業資料 その他 ()
- ⑨ 生徒に発表をさせている先生に質問です。何月に発表させていますか。（複数回答可）
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月
12月 1月 2月 3月

4

活用例3

初任者や10年経験者を中心に研究授業などを行ってきたけど、教員全体で授業力向上について語り合ったり協働したりするためには何から始めたらいいかな…



1. 教員全体で授業力向上について検討していくために、どのようなきっかけ作りが必要かについてPTで議論する。
2. 校内全体研修に向けて、PTのメンバーがセルフアセスメントシートを実際に活用し、現状の把握と、教員全体で重点的に話し合うべき項目の事前確認を行う。
3. 校内全体研修において、全教員が組織として授業力向上に取り組むことの重要性を認識できるようにするため、各グループにPTメンバーが1名ずつファシリテーターとして参加する。必要に応じて、ファシリテーターのみが「組織的な授業力向上をより充実させるためのヒント」を参照しながら議論を促進できるようにする。
4. 校内全体研修で出された意見等をふまえ、PTが振り返りを行い、次年度の授業力向上に向けた取組み内容を計画する。



全教員が**自校の強み**について共通認識をもつことで、学校としての取組みはもちろん、各教科においても工夫できる点について話し合うことができた。

府立岸和田高校の実践

岸和田高校では、「初任者・10年経験者校内研修及びICT授業支援チーム」が管理職とともに定期的に会議を開催できるよう、時間割等を工夫している。

チームが中心となって、毎年4月に岸和田高校としてめざす授業や生徒像について共通認識をもつためのガイダンスを行い、5月・6月にはチームメンバーとベテラン教員が交流しながら公開授業に向けた準備を進めている。

その中で、授業力向上に向けた取組みを学校として進めることができているかを改めて全教員で検討したいと考え、まずはチームメンバーがセルフアセスメントシートを用いて現状を確認することにした。そこで出た意見をもとに、認識の違いや議論で出てきそうな話題を整理するとともに、校内全体研修におけるファシリテーションの工夫点や留意点について検討した。

11月の公開授業週間の最終日に実施した校内全体研修会では、自校の取組みなどをふまえ、まず各自がセルフアセスメントシートの全項目に「A」～「C」を付けた（約10分）。その後、6～8名のグループに分かれ、チームメンバーがファシリテーターとなって、「なぜその評価にしたのか」「よりよい授業のためにどの項目を重点的に考えるか」「今後、全教員や各教科で実際に取り組めることは何か」について議論を行った（約40分）。グループでの意見を全体で共有した後、校長が教員の強みをふまえ、学校としてめざす生徒像や目標について総括した。

3月末には、チームで今年度の授業力向上の取組みについて、「何を行い、どこまで達成できたか」という成果と課題を振り返り、次年度の授業力向上に向けた目標や取組み内容を検討した。これらを年度末および次年度当初の職員会議で全教職員と共有し、協働して取り組める体制づくりを進めている。



4

活用例4



授業力向上のためのチームはあるけど、毎年メンバーがかわっていく中で、どうすればこれまでの成果や課題をきちんと引き継いだり、強みを生かしたりしていけるのかな…

1. PTでセルフアセスメントシートの項目を確認する。

2. 「PTとして忘れてはいけない視点は何か」をテーマに、これまでの経緯もふまえた自校の強みについて議論する。

3. 学校が求め続けていくべき姿をセルフアセスメントシートにも落とし込んで残していくため、自校用にセルフアセスメントシートの表現をアレンジする。

アレンジを通して、**学校が追い求めていくべき姿を具体（言語）化**することができたので、メンバーがかわってもアレンジ版をもとに強みを生かした継続的な取組みにつながりそう！



教育センター附属高校の実践

教育センター附属高校では、首席と管理職から指名された教員とで構成される「授業研究コアチーム」が週1回定例会議を行っている。その会議では、過去に実施された校内研修のテーマ・内容・形態を確認し、学校がめざす生徒像と生徒の実態を照らし合わせながら、年3回の校内研修の内容を検討している。その中で、「コアチームのメンバーがかわっても、組織的な理念やめざす生徒の姿などの思いを継承していけること」を目的として、**セルフアセスメントシート**の文言を自校独自にアレンジして活用する取組みを行った。

アレンジするにあたり、各項目の「A」の段階などを中心に、そこに、自校が理想としてめざし続けたい方向性をより具体的な文言として反映できるよう、各項目について以下のような観点から議論を行った。

まず、項目①では、「十分な共通理解」の認識について話し合ったあと、項目③では、「生徒の学習状況等の実態」という文言について共通理解がもてるよう、自校の教育方針や実践に即した具体的な表現にした。さらに、項目④では、③との関連性を意識しながら、自校が理想とする、生徒が「探究する」姿を明確に反映した内容となるようにした。最後に、項目⑧では、「知見」の意味について、全教員が「授業デザインシート」を作成して授業実践を行っている意義や方向性を明文化するよう表現を検討した。

今回のセルフアセスメントシートのアレンジを通して、コアチームで学校としての強みや取組みを再確認することができた。それについての共通認識を全教員で持てるよう、アレンジした**セルフアセスメントシート**を実際に4月の校内研修で活用する予定である。



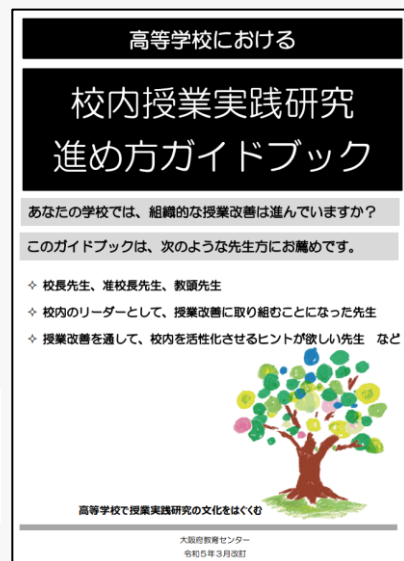
③	
	生徒の実態をふまえた本年度の目標と成果指標の設定
A	□ 生徒が主体的に深く学ぼうとしているか、また、教員がその状況を正しく認識できているかを検証・分析し、それを多くの教職員が理解している。

⑧	
	取組みの検証と知見の活用
A	□ 検証から得た知見を、これまで蓄積してきた組織編製の工夫や校内研修の内容、授業デザインシートの形式等の過去の知見と合わせて分析し、前年度から次年度につながる継続的な改善を学校全体で検討している。

Supporting materials

(1) 高等学校における校内授業実践研究 進め方ガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善の推進に関する成果をまとめたものです。ここでは、京都大学 石井英真准教授からの提言や、校内授業実践研究の意義や方法、さらには府立高校の組織的な授業改善の具体的な実践例を掲載しています。



(2) 校内研修支援コンテンツー校内研修パッケージ動画ー

校内研修の活性化に向け、(1) 課題把握、(2) テーマ設定、(3) 研修実施、(4) 効果測定・評価までのサイクルについて、学識経験者による指導助言を受けながら、年間を通じて支援を行いました。この取組み内容について、動画コンテンツとしてまとめています。

(※教職員専用サイト、パスワードが必要です)



(3) 府立高等学校「授業力向上のためのパッケージ支援」 ー各学校の取組みについてー

これまで教育センターが支援してきた学校の取組み等から、参考となる実践例を取り上げ、紹介しています。各校の取組みの中から、管理職や校内研修主担者（リーダー）が何をどう考え、取組みを進めていったのか、その具体的な方法や工夫を学び、自校における組織的な授業改善の推進に役立ててください。





令和8年3月 第1版

大阪府教育センター
カリキュラム開発部
高等学校教育推進室

